



今号の表紙

足助地区の棚田に春！

山里の谷間に広がる無数の段々畑ならぬ棚田。きれいに整備されている姿は、土地所有者の皆さんの農業に対する並々ならぬ想いが現れています。

写真は足助地区の葛沢町の風景です。水が張られ、苗が植わる頃は、もうすっかり春。そして、夏を経て秋の収穫へと、棚田は四季折々の彩りの美しさを見せてくれます。

(撮影／川合延昌委員)

農業委員会だより Vol.3

INDEX

表紙 足助地区の棚田に春！	1
特集 新農業委員決まる	2
第2次豊田市農業基本計画策定	4
柘塚会が日本農業賞大賞を受賞	5
声／お知らせ	6

発行／豊田市農業委員会
企画／農業委員会だより編集委員会

担い手の育成と農地の保全を



豊田市農業委員会
会長 光輪龍雄

この度、農業委員会の臨時総会において会長の大役を仰せつかりまし

た光輪龍雄です。
現在の農業を取り巻く環境は、大変厳しい状況にあります。原油価格の高騰による資器材の値上がりや後の継者問題、食品偽装に端を発した食の安全の問題など、先行きが不透明な時代になっていきます。

一方で、国内の食料自給率は39%と先進国の中では最も低く、農業の重要性が見直されているところであります。
豊田市農業委員会におきましては、市内の農業の発展の為、担い手の育成と農地の保全を目指し、47人の委員と力を合わせて頑張りたいと思います。皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

委員が決まりました



 農政部長職務代理 三宅宏始 井上町	 窪田清一 清水町	 榎岡正勝 小原田代町
 原田鈔治 綾渡町	 森和子 舞木町	 岡田諄 常盤町
 寄田種子 綾渡町	 高木キヨ子 秋葉町	 近藤光良 西岡町
 杉本久 上丘町	 武田明浩 田初町	 森昭二 成合町
 奥村八千子 荒井町	 那須良弘 山中町	 永田昭一 宮上町



*平成19年

7月～20年2月

農業委員会の歩み

- 7月～20年2月 農地パトロール実施
- 9/19 現地調査(3班)実施
- 9/26 総会・農地部会開催
- 10/24 総会・農地部会開催
- 11/20 現地調査(4班)実施
- 11/28 総会・農地部会・新規就農者事前審査会開催
- 12/25 総会・農地部会・新規就農者事前審査会・愛知県農業会議事務局長との意見交換会開催

*平成20年

- 1/22 現地調査(1班)実施
- 1/25 総会・農地部会開催
- 2/25 総会・農地部会開催
- 3/19 現地調査(2班)実施
- 3/24 総会・農地部会開催
- 4/28 総会・農地部会開催
- 5/28 総会・農地部会・新規就農者事前審査会開催
- 6/2 現地調査(3班)実施
- 6/26 総会・農地部会開催
- 7/22 臨時総会開催
- 7/28 総会・農地部会開催
- 8/26 総会・農地部会開催

※農政部会は随時開催

農業委員統一選挙後の新しい農業

	 会長 光輪 龍雄 樹木町	 会長職務代理 都築 猶之 中町	 農地部会長 中根 清茂 花沢町	 農政部会長 宇野 金造 中垣内町	 農地部会長職務代理 藤井 捨和 渡刈町	
	 中村 正寿 西中山町	 吉原 克己 黒田町	 中根 富文 滝脇町	 安田 稔生 若林西町	 荻野 正昭 黒坂町	 細井 久男 大清水町
	 花井 靖雄 駒場町	 山田 静男 本徳町	 中根 健詞 御立町	 有我 康和 榑塚東町	 高橋 鎮 下国谷町	 二本松 讓 上切町
	 石川 新一 畝部東町	 後藤 鋤雄 押井町	 加藤 宏行 中根町	 谷澤 秀夫 和会町	 黒野 吉明 水間町	 西山 修美 平和町
	 加藤 清隆 田振町	 水野 勝彌 東梅坪町	 山内 昭一 木瀬町	 塚田 光生 押山町	 土屋 鎬示 西細田町	 鈴木 博 栃ノ沢町

農地を守ろう！

農地パトロール実施中

遊休農地や耕作放棄地を解消するため、今年度も農業委員による農地パトロールを実施していきます。
 農業委員会では、これらの調査を基に、遊休農地等の解消を図る計画を策定していきます。土地所有者の皆様も自主保全管理等にご協力をいただきますようお願い致します。

無断転用を無くそう

農地を農地以外に転用するためには、農地法上の許可申請（市街化区域内については届出）が必要です。資材置場や土石採取などの一時的な転用でも許可申請（届出）が必要です。無断で転用されますと罰則もありますので、必ず手続きをしていただくようお願い致します。

詳しくは農業委員会事務局へお尋ねください（TEL 34-6639）。

将来像は「市民が守り育てる『とよたの農』」

第2次豊田市農業基本計画を策定

豊田市は、昨年度に農業・農村の持つ本来的機能である食料供給と環境への貢献、地域社会の形成・維持などを目的に「第2次豊田市農業基本計画」を策定しました。

躍進するまちとよた」とし、農業基本計画では農業の将来像を「市民が守り育てる『とよたの農』」を目標としています。

基本目標は4項目（左表）とし、

第7次豊田市総合計画では将来都市像を「人が輝き 環境にやさしく

それぞれに目標値を設定して各種施策を展開していきます。計画の期間

は、平成28年度までの10年間です。なお、諸情勢の変化に対応するため、5年後の平成23年度をめどに施策計画の見直しを想定しています。豊田市農政課では、計画の概要版等を用意しておりますので、詳細についてお知りになりたい方はお気軽にお越しください。概要版の配布は無料です。

▼問合せ 豊田市農政課

(TEL 34-6640)

第2次豊田市農業基本計画の基本目標

目標1 地産地食の推進

- 学校給食、直売所・市場出荷など市民に新鮮で安全な農作物を供給する仕組みをつくり、生産意欲の向上による農業の振興を図ります。
- 市内産農産物の消費拡大を図るために、産地直売などを通じて生産者と消費者が顔の見える関係をつくり、農業者と市民の農業及び食への相互理解を図ります。

目標2 多彩でたくましい農業の振興

- 大消費地近郊の平地農業や中山間地域農業など、それぞれの地域特性を生かした産業型農業の振興を図ります。
- 輸出や直売など新たな販路の確保とブランド化を推進し、消費者ニーズをとらえた農産物の生産を進めます。
- 次代を担う就農者の確保・育成を進めるとともに、生きがい型農業者や援農者を育成するなど、多様な担い手づくりを支援します。

目標3 農業を通じた地域環境の保全

- 農業・農地が持つ多面的機能の維持・増進に向け、環境保全型農業の拡大を図るとともに、地域ぐるみでの環境保全活動を推進し、農業を通じた地域環境の保全を図ります。

目標4 都市と農山村の共生

- 農山村の多彩な地域資源を地域の創意工夫により生かして、農を生かしたむらづくりや都市との交流を活発化させることにより、地域活力の向上を図ります。
- 農業・農地が持つ多面的機能の保全と生活関連施設の整備・充実を図ることにより、魅力ある農山村づくりを推進します。

市民が守り育てる『とよたの農』

獣害対策支援制度を充実しました

近年、中山間地域において農業を営む上で支障になっているのが野生獣類による被害です。今年度からさらに獣害対策支援制度を充実しました。

①緊急野生獣類被害防止対策事業【新規】

地域ぐるみで効果的な対策をする場合に資材費の9/10を補助します。

②狩猟免許取得支援事業【新規】

③野生獣類被害防止対策事業【継続】

個人又は3名以上の団体を対象に、防護柵等の資材費を補助します。

※いずれも条件等がありますので、詳しくはお尋ねください。

■問合せ 豊田市農政課農村振興担当(TEL34-6640)





農事組合法人「枿塚会」が

日本農業賞大賞を受賞しました

豊田市の農事組合法人「枿塚会」が第37回日本農業賞大賞（個別経営の部）に輝き、3月22日にNHKホールで受賞式が行われました。

この賞は、意欲的に経営や技術の改善に取り組み、地域社会に貢献している個別経営や集団組織を対象に

贈られるもので、豊田市内では過去に農事組合法人「若竹」が平成4年に特別賞を受賞されています。

5月18日には、ホテル豊田キャッスルで枿塚会の受賞祝賀会が開かれ、各界の方々がご祝辞を述べられました。

受賞された枿塚会の有我淳子委員は、次のように語っておられました。

「私の住む豊田市南部の上郷地区の田んぼはほ場整備が進み、肥沃な土壌です。長年にわたり、ブロック・ローテーションによる集団転作を地域の農家の皆様が協力してくださり、そのおかげで品質の良い米、麦、大豆が生産出来ていると思います。

農業は、自然相手に天候に左右され、自分の努力ではどうにもできないことも多く、心労の多い職業だと思います。私達枿塚会も発足して18年です。重労働は身体に応えませんが、農業が好きですし、健康で働けることを感謝しながら、これからも安心・安全・信頼のおける作物作りに頑張ろうと思います。」



新規就農者 INTERVIEW インタビュー

坂上町で平成17年から新規就農された「松本自然農園」の松本直之さんにお話を伺いました。

松本自然農園という屋号をかかげて新規就農して4年目になります松本直之です。無農薬・無化学肥料で野菜を生産し、販売しています。生産するだけでなく、営業・経理・流通・販売までを全て一人でこなしているため、農業とは何と大変な職業なんだろうと感じているところ

インターネット利用で販路拡大



松本自然農園 松本 直之さん
<http://www.matsu-farm.com/>

らないので、利益率の高い経営を実現することができません。

私のように無農薬・無化学肥料で生産する新規就農者が抱える共通の悩みは、「販売先の確保が上手くいかない」ことのようなのですから、いかにして販路を見つけていくかという問題については有機農業が抱える大きな課題の一つだと思います。私は、その解決先の答えの一つがインターネット販売にあると

考えてホームページを立ち上げています。現在が受注のほとんどがインターネットを通じて入ってきていることから、販路確保・拡大に少なからず効果があることができています。まだまだ経験が浅く自分のことで精一杯ですが、今後意欲を持って新たに

入ってくる新規就農者に対して何か出来ることはないだろうか、という想いがあります。野菜栽培に関しては素人に毛が生えた程度の私ですから、栽培技術を提供していくというよりはインターネット販売のノウハウを中心に広めていけたらと考えています。（取材／原田正嗣委員）

私の事業の特徴は、消費者への直接販売です。季節に沿った旬の野菜を年間で50品目ほど栽培し、野菜を詰め合わせたセットにして販売しています。この方法ですと、お客様の反応をダイレクトに感じることができて顔の見える関係を築けますし、流通販売に関して仲介手数料がかか



食の危機

中根清茂委員(花沢町)

食文化の多様化が進む中で、日本の農業のあり方が問われている昨今ですが、四川大地震の影で忘れ去られてしまいそうなギョウザ

事件は、日本の食卓がいかに、中国を始めとする諸外国に依存しているかを思い知らされた事案です。輸入の量的な問題も去ることながら、食料の危機がこんな角度からも忍び寄っていることに、私たちはどう防衛すれば良いのでしょうか。さまざま考えを巡らせているうちに、私は3年ほど前に上海で買い求めたお茶のことを思い出しました。

団体旅行で上海を訪れた私たちは茶葉店に通され、肝臓に大変良いと「一番茶」というものを勧め

られました。体に良いならと購入し、帰国後、2週間ほど飲み続けたところで身体に原因不明な赤い発疹が出ました。驚いて皮膚科へ飛び込んだのですが、医師は開口一番「これは自然界で作られた物質ではなく、人工的に作られた物質、つまり農薬による被害です。原因と思われるものをとめて、服薬すれば20日間程度で治ります。」と言われました。一番に思い立った「一番茶」の飲用を止め、折る思いで薬を飲みました。予想通り20日程で全治したという本当に私が体験した事実なのです。

私たちの豊田市内でも、耕作放棄地が拡大しています。特に中山間地では、高齢化と共に一層深刻になっていくことは残念ながら明らかです。農地の保全と食の安全・安心は、いつ、何がきっかけで危機に陥るかわかりません。明日突然起こるかもしれない。不安を煽るわけではありませんが、オイル、鉄、...では、その次は？ 私たちの身近には、不安に駆られる要素がたくさんあります。他人事のように思えても、すぐそこに、危機の種は転がっているのです。

お知らせ

標準小作料を改定

	標準小作料
水田(10a以上)	12,000円
水田(10a未満)	5,000円
畑(10a以上)	7,500円

★ほ場整備未整備地区は標準額なし
今年2月に小作料協議会を開催し、同月の農業委員会総会の議決を経て、市内農地の標準小作料の改定を行いました。

※農地の立地条件や形状によって大きく異なります。あくまで参考額として取り扱ってください。

▼問合せ 農業委員会事務局 (Tel 34-6639)

全国農業新聞のご購読を

週刊の「全国農業新聞」には、農業・農政の解説や農業経営・流通の最新情報、くらしと地域の話題等が盛り込まれています。発行日は毎週金曜日で、購読料は月額600円です。購読を希望される方は、農業委員会事務局へお申し込みください。



農地法3条の 下限面積を改定

7月15日から次の表のとおり改正されました。

地域	面積
旧豊田市	30a
同上(農業振興地域)	10a
旧藤岡町	30a
旧小原村・足助町	20a
旧下山村	40a
旧旭町・稲武町	20a

農業者年金に加入を

農業者年金は、60歳未満の国民年金第1号被保険者で、年間60日以上農業に従事している方ならどなたでも加入できます。年金額の目標に向けて、保険料を月額2万円から6万7千円まで、経営の状況などに応じて決められ、見直しも可能です。認定農業者の方には、保険料の国庫補助制度もありますので、ご相談ください。

▼問合せ 農業委員会事務局 (Tel 34-6639)、あいち豊田農業協同組合 (Tel 31-2326)

編集後記

7月の農業委員統一選挙により、公選委員の40人のうち、27人が改選されました。皆様のご活躍をお祈りします。また、豊田市農業委員会だより第2号は「全国農業新聞賞」を受賞しました。これを機に、さらにより良いたよりを発行してまいります。